

目指す授業像（本学区では、共通してどんな授業を目指すのか）	
視点1「学習意欲の持続」	視点2「児童生徒が主体となる学び合い」
学習課題を受け、解決のための見通しをもちながら、課題解決のために主体的に学び続ける児童生徒が見られる授業。	自分の考えをもち、学び合いによってその考えを広げたり深めたりしながら、より良い考えにたどり着こうとする児童生徒が見られる授業。
【現時点での課題（授業者・学習者）】 ・「読むこと」や「書くこと」への苦手意識が徐々に軽減されているが、「我が国の言語文化に関する事項」についての関心が薄い傾向がある。（学） ・単元の見通しを振り返りシートを用いて示しているが、ゴールとなるモデルをどのくらい示すことが課題解決意欲の持続となるのか。（授）	【現時点での課題（授業者・学習者）】 ・低位の生徒の学びの深化。どのようにすれば学びが深まったり、広がったりしたと言えるか実感できていない生徒がいること。（学） ・「個別最適な学び」が果たして生徒一人一人にできているのかどうか。（授） ・低位や上位の生徒への支援や手立てをどこまで行うのがよいのか。（授）

第1学年 国語科 単元指導計画		
単元名 今に生きる言葉 ～ 故事成語を知ろう ～ 主教材：今に生きる言葉 （光村図書 中学1年）	日 時	令和4年11月1日（火）5時間目
	対象学級	遠野東中 1年B組（20名）
	授業者	教諭 佐々木 洸美
1 単元の目標 （何ができるようになるか）		
【知識及び技能】 古典には様々な種類があることを知ることができる。 （(3)イ）	【思考力、判断力、表現力等】 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものに行うことができる。 (C(1)オ)	「学びに向かう力、人間性等」 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
2 単元で取り上げる「課題解決的な言語活動」 （何を通して育成するのか）		
（関連：言語活動例 イ） イ 小説や随筆などを読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする活動		
3 単元の評価規準 （何が身に付いたか）		
知識・技能 古典には様々な種類の作品があることを知っている。 （(3)イ）	思考・判断・表現 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものに行っている。 (C(1)オ)	主体的に学習に取り組む態度 粘り強く自分の考えが伝わる文章になるように工夫し、学習の見通しをもち、どのような場面で故事成語が使えるかを考え、実生活に活かそうとしている。
4 「2つの視点」+αによる授業改善 （どのように学ぶか）		
視点1「学習意欲の持続」 ① 第1時において、単元の見通しと言語活動のモデルを提示する。 （この単元では <u>どのような学習活動を行うか</u> 、 <u>故事成語を読み取った上で、文章に何を</u> <u>書くのか</u> を生徒に提示する。） ② 第3時の授業で取り扱う故事成語は、日常生活で使えそうだと思うものや意味が容易に理解できるものを選定する。 ③ 第2・3時を同じ流れで取り組むことによって、課題解決までの流れをつかみ、スムーズに取り組むことができるようにする。	視点2「児童生徒が主体となる学び合い」 ① 「矛盾」や「五十歩百歩」という故事成語を使って、体験文を書く。 ② 体験文や具体例を書く活動において、モデルを参考にしながら、意味と体験が合っている文章になっているかどうかを確認する活動を設定する。 ③ ジグソー式で自分が担当する以外の故事成語と出会うようにする。	本校の+α「振り返り」 ① 単元の振り返りシートによる単元・本時の見通し。学習の積み重ねの確認。

5 単元の指導と評価の計画（全3時間）		（単元をどうデザインするか）	
時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準〔評価方法〕
1	<p>○単元の見通しを持つ。</p> <p>①既習事項の確認。</p> <p>②矛盾を音読する。</p> <p>③書き下し文と口語訳を交互に読む。 （ペアで）</p> <p>④単元のゴール、本時の見通しの確認。</p> <p>○故事成語とは何かを確認する。</p> <p>○「矛盾」の意味にちなんだ体験がないか。 短い体験談や具体例を書く。</p> <p>○本時の振り返り。次時の確認。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・①既習の学習で「推敲」という言葉が出てくるので、この言葉が中国の故事を由来にできた言葉であると説明する。 ・国語辞典を用いて語句の意味を確認する。 ・故事成語とはどのような言葉なのかを確認する。 ・なかなか自分の体験を書くことが難しい生徒については、具体例でもよいことを伝える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 観点 : 「いつ」「誰が」「どこで」「どうした」という観点を入れて書く。 </div>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典には様々な種類があることを知っている。 <p>[学習シートの記述・発言]</p>
2	<p>○音読（ペア）</p> <p>○本時の見通しを持つ。</p> <p>○「五十歩百歩」の意味を辞典で調べ、読み取った意味にちなんだ体験や具体例を書く。</p> <p>○グループでそれぞれが書いた文章の意味と体験が合っているかを確認する。</p> <p>○他のグループの文章を読み合う。</p> <p>○全体交流。</p> <p>○本時の振り返り。</p> <p>○次時の確認。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・辞典から読み取った意味と自分の体験が合っているかを確認する。また、書き方（観点）も書かれているか確かめる。 ・机間巡視をして、意味と体験や具体例が合っていて、理解しやすそうな文章を紹介する。 	<p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく。 <p>[学習シートの記述]</p>
3 本時	<p>○音読（ペア）</p> <p>○本時の見通しを持つ。</p> <p>○日常生活で使えそうな故事成語について、意味にちなんだ体験や具体例を書く。</p> <p>○グループでそれぞれが書いた文章の意味と体験が合っているかを確認する。</p> <p>○他のグループとの交流。</p> <p>○単元の振り返り。 （日常生活で使えそうだった故事成語と古の言葉が現代にも通じるということから気付いたことや考えたことを書く。）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で確認した書き方を意識しながら書かせる。 ・自分と異なるペアの発表を聞き、新たな故事成語の意味や使い方を知る。 ・他者との交流で得た視点も参考にし、自分の考えを書かせる。 （自己の学びの調整） 	<p>【学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような場面で故事成語が使えるのか、仲間の意見を聞き、実生活に活かそうとしている。

6 本時の展開		(本時をどうデザインするか)
	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入 5 分	1 音読する。 2 単元の見通しを持つ。 3 本時の学習課題の確認。	【視点1：学習意欲の持続①】 ・前時の生徒の振り返り。 (振り返りの視点を紹介する⇒生徒の意欲向上に繋げる。) ・本時の学習過程の見通しとゴールの確認を確認する。
	【学習課題】 仲間が調べた故事成語と出会い、日常生活に使えるものを見つけよう。	
展 開 35 分	4 自分が担当する故事成語にちなんだ体験文や具体例を書く。 (グループ毎に異なる故事成語を割り当てる。)	・辞典から調べた故事成語の意味から読み取ったことを体験文や具体例に書く。 【思考・判断・表現①】 ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。
	5 グループ内で故事成語の意味と体験や例が合っているかを確認する。 6 グループ毎に調べた故事成語を交流する。 (ジグソー式に座席を変えて交流を行う。)	【視点2：児童生徒が主体となる学び合い①】 ・読み取った意味と自分の体験や具体例が合っているかを確認する。(発表前の確認) 【視点2：児童生徒が主体となる学び合い②】 ・グループ毎の交流を行い、調べた故事成語を発表する。 ・グループの人での交流を通して、新たに知った故事成語の意味を書く。 ・他の人の発表を聞いて、紹介した故事成語が今後の自分の日常生活でどのようなときに生かせそうか考えながら聞くように指示する。 (発表後、 <u>学習シート</u> に記入する。) ⇒日常生活で使えそうな故事成語。その理由。
	7 全体交流を行う。	・5の交流の中で、交流できなかった故事成語がないように補足する。
終 末 10 分	8 単元の振り返りを行う。	【本校の+α振り返り】 単位時間・単元の授業を通して、自分ができるようになったことやわかったこと、次に活かしたいことなどを振り返る。
	・私が日常生活で使えると考えた故事成語は、「登竜門」です。理由は、今後の学校生活の中で自分にとって越えなければいけないものがたくさん出てくると思ったからです。また、私は、今まで意味を調べてもどのような状況で使うのかまで考えたことが少なかったと感じました。今回、意味を調べ、学級で紹介することになったときに改めてどうすれば伝わるのか考えたり、故事成語のように古くからの由来があったりして使われている語句もあると知り、驚きました。今後も新たな言葉の意味や由来を知って、正しい使い方ができるようにしたいです。	

